

# 1. 評価結果概要表

作成日平成20年10月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770103087
法人名	株式会社菜の花
事業所名	グループホーム菜の花
所在地	香川県高松市飯田町104-1 (電話)087-881-0322

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年9月22日	評価決定日	平成20年10月21日

## 【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.8人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	21,000円+実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	64歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山下内科小児科医院 キナシ大林病院 全人クリニック 池田歯科医院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、近隣住宅と田園に面し静かで環境に恵まれている。玄関前の菜園に利用者が野菜を栽培し、取れたての野菜を昼食の食材に使っている。理念の一つでもある”利用者様を中心に皆で睦みあい親しみを深め尊重しあう、楽しく穏やかな我が家づくり”のとおり、管理者、職員の目標は高く、常に一歩前進する介護実践に取り組んでいる。屋内は明るく、手作りの置物や利用者の詩、行事写真、お月見の塗絵を飾り、リビング天窓からの自然光や空気の流れは家庭的雰囲気である。医療連携体制も充実しており、利用者、家族、職員の安心と信頼につながっている。隣近所の方と、フェンス越しに会話したり、金柑をいただいたり交流している。利用者は若々しく表情も明るく穏やかにその人らしく暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については、管理者を中心に職員間で話し合いできるところから改善に取り組んでいる。注意の必要な物品の保管管理は、改善できている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、ユニット単位の申し送り、カンファレンス、全体会議で話し合い取り組んでいる。自己評価の作成は管理者が行なっている。職員は、自己評価は日々の介護実践を振り返る機会と前向きに捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回運営推進会議を開催し、ホームから活動状況、行事、研修会参加などを報告している。幅広い構成メンバーで参加者も多く、議題について活発な意見交換が行なわれ、意見をサービス向上に反映する取り組みをしている。議事録も具体的に記録しており、内容は構成メンバー、職員に周知している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関にご意見箱を設置したり、運営推進会議、家族会、面会時に意見や要望をお聴きし運営に反映している。毎月、家族便りに管理者、担当者が利用者の医療関係、生活状況、行事参加などを書いて写真と一緒に送付している。職員の異動については、面会時および年4回の「菜の花だより」で報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者は、自治会に加入している。地域の文化祭に作品を出展したり、祭り、老人会の風船バレー、ボランティアによる歌謡ショーに参加している。また、近隣とはフェンス越しに野菜や果物をやり取りするなど、地域住民と利用者、職員が一体となり地域との交流を深めている。地域の方は施設の介護教室に参加するなどから事業所の理解を得ており、災害時の協力体制もできている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の方針4項目「真実かどうか」「皆に公平かどうか」「皆の為に成るかどうか」「好意と友情を深めているかどうか」を基に事業所独自の運営理念をつくり、共用空間の各フロア、トイレに掲示し、利用者主体の「楽しいわが家づくり」を実践している。	○	会社の方針を基に、グループホーム独自の運営理念をつくり、職員は共有し地域との交流に活かしている。さらに、家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、地域密着型サービスとして取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝申し送り時に全職員が声を出して復唱している。理念に基づき、利用者は「人生の先輩として敬う」介護ができていくかどうかを管理者と職員は確認しながら、介護技術の向上」に努めている。職員は、家族の一員と考え名札は付けていない。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域住民との挨拶を心がけている。地域の文化祭に作品を出展したり、祭り、老人会の風船バレー、ボランティアによる歌謡ショーなど施設内外での交流に努めている。近隣とはフェンス越しに言葉をかわしたり金柑をいただいたり親しくしている。地域の方は、ホームの認知症介護教室に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は全職員で確認し、改善項目を検討し、改善できるところから取り組んでいる。自己評価は、管理者を中心にユニット単位に、申し送り、カンファレンス、全体会議で取り組み作成は管理者が行なっている。職員は、自己評価は日々の実践を振り返る機会と前向きに捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、活動状況、行事、研修参加などを報告している。構成メンバーの参加も多く、質問や活発な意見交換がされ、指導、検討課題は職員に周知し、意見はサービス向上に向けて取り組んでいる。現在、施設増設の意見もあるが、地域状況を勘案し家族アンケートを予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と、運営に関する調査・相談・助言などを受け、迅速に改善し介護サービスの向上に取り組んでいる。 市担当者は、ホームの「認知症介護教室」に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族だよりを送付している。利用者の医療関係、生活状況報告と生活写真を同封している。家族から面会時口頭でお礼の言葉がある。職員の異動は、家族面会時、また、年4回の「菜の花だより」で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、ご意見箱を設置しているが意見は皆無である。家族面会時に職員が利用者の状況を説明し、意見・不満・苦情をうかがい対応している。運営推進会議、家族会(ホームのイベント時)での意見などは、全職員に周知し改善項目は迅速に検討し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用者には、理念を基に指導者をつけて職場内教育を行なっている。特に夜勤につく場合は、必ず2～3回は指導者と共に勤務し、異動時のダメージを最小限にする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部内研修は、協力病院の医師から「認知症介護教室」を8回シリーズで開催し、全職員が参加し共有している。 部外研修も職員の段階に応じて、希望者は出張扱いで参加している。研修後、職員に伝達し介護サービスの質の向上に反映している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム4か所と2か月に1回程度、相互訪問し介護サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族が安心して納得できるように、家族および近親者に利用開始前にホームを数回見学してもらい、雰囲気に自然に馴染みながら入所してもらっている。サービス利用は、利用者主体で開始できるように家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを職員は共有している。野菜作り・うどん作りの場面では、利用者に教えてもらうなど家族の一員として、共に過ごし共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の言葉や表情から、思いや希望の把握をしている。利用者の状態により家族から情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のユニット会議、担当者会議(3か月ごと)、毎週木曜日の診察前会議で全職員および関係者と意見交換を行い、利用者本人の意向やアイデアを反映しながら個別の具体的な計画を作成している。家族の意見、要望は面会時や電話で話し合い計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに定期的見直しを行っている。利用者の状態に応じて、申し送り、毎週の診察前会議などで随時現状に応じた新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の要望に応じて耳鼻科の通院介助、外出、買物、散歩など臨機応変の支援ができています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回ホームで協力病院の内科医、心療神経、精神科医、歯科医の訪問診療を受けており、協力病院とはスムーズに連携がとれている。職員は診察前会議で情報交換をしている。取締役施設長が看護師の経験を活かし、利用者の状態に応じて家族や医師に連絡し適切な対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の家族から医療連携体制同意書(急性期・慢性期・重介護・終末期および入院時)を取っている。状態の変化に応じてその都度、家族、医師、看護師などと話し合いを持ち、職員は方針を共有している。ホームで対応し得る最大のケアについても関係者で常に話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については機会あるごとに職員に伝え、確認もしている。また、「菜の花だより」の利用者の写真は家族の同意を得てから外部に配布している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴、食事時間、入浴時間、散歩など利用者の希望に合わせて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調にあわせ一緒に準備、後片付けをしている。食材の野菜(苦瓜・かぼちゃ)は利用者と一緒に栽培したものを使っている。職員は利用者と同じものと同じテーブルで見守りながら楽しく食事している。時々、ファミリーレストランへ出かけ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴支援をしている。時に入浴を拒む利用者には清拭を行なっている。また、希望に沿って夜間の入浴も行なっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の手伝い、洗濯たたみ、野菜の栽培、詩を書くなど、利用者の生活歴や力量に応じて過ごせる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝食後、夕食後、庭先に出て山に沈む夕日を眺め、思い思いの時間を楽しんでいる。利用者の体調に合わせて岩田神社への初詣、花見、スーパーへ買物、散歩など職員はできるだけ戸外に出かけられる支援を心がけている		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。徘徊者は職員がいち早く察知し、職員と一緒に行動している。また、徘徊は下肢筋力運動と捉え安全面に配慮し利用者に応じた支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上の消防訓練、避難訓練は利用者参加で実施している。近隣の人々の参加はないが協力体制はできている。今年12月には、消防署の協力を得ての訓練を計画している。喫煙する職員は採用していない。	○	さらに、夜間想定訓練は計画中である、消防署参加の訓練実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、利用者の好みを聞いて職員が交替で栄養バランス、水分量を確保できるように立てている。職員は一人ひとりの摂取量を記録し把握している。利用者の状態によって医療行為で確保を支援している。検査法をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、利用者が腰を掛けて靴が履けるよう工夫をしている。玄関の左右に各ユニットがあり自由に行き来でき、フロアは畳コーナー、ソファと家庭的雰囲気になっている。ホーム内の空気が淀まないよう天窓を開閉している。また、お香を焚いて心を和ませている。西側の居室はすだれ使用や苦瓜(日除け)を栽培し季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、利用者の使い慣れたテレビ、絵画などを持ち込み落ち着いた家庭的な雰囲気の中で過ごしている。表札は自宅のように苗字で表している。		